

第一章活用事例

小学校五・六年生版「心たくましく」
「人はどんな場合にいても…」

P.28

中心資料

「ぼくの草取り体験」(小学校 読み物資料とその利用
平成六年三月 文部省)

【主題名】 働く喜び

第五学年及び第六学年 4・(4)

「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つよう努力する。」

【ねらい】 勤労の意義を理解し、社会のために役立つ喜びを知り、公共のために進んで働くことに対する心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》五・六年生になると自分が家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活していることを理解します。しかし、その中で自分の位置や役割を理解している児童は、多くはありません。そこで、委員会活動や地域でのふれあい活動などを通して、社会や集団の中で自分の役割を果たす経験をさせていくことが求められます。奉仕的な活動の意義ややりがいについて考えさせ、公共のために役立つこととする心情を育てることが大切です。

導入



「奉仕活動を知っていますか。また何か行ったことはありますか。」

○奉仕活動をしたことのある児童の話を紹介し、資料に興味と関心をもたせましょう。

○教師が「ぼくの草取り体験」を読み聞かせましょう。



「しかたなしに公園の草取りに行くことになった時、『ぼく』は、どのようないことを考えていたでしょうか。」

○奉仕活動に対して、誰かがするだろうと思う気持ちや、よいことだとは思えなくても自分が行うのは照れくさいという弱い気持ちが起きていることを捉えさせましょう。



「ぼく』は、どのようないことを考えて、さつきよのもしつねいに草取りを始めたのでしょうか。」

○洋君との会話を通して、真剣に草取りをするぼくの気持ちに共感できるようにしましょう。

中心発問



「小さい子どもの笑い声を聞いて、『ぼく』は、どのようない気持ちになったのでしょうか。」

○小さい子どもの喜びが自分の喜びとなっている「ぼく」の気持ちを感じ取れるようにしましょう。

《評価》 みんなのために役に立つことで得られる、大きな喜びに気が付き、勤労の意義についての理解を深めることができたか。

○洋君の話や行動から、「ぼく」の考えが変わったことに着目させ、はじめは嫌々行っていた草取りだったが、人が喜んでくれる活動だと分かりやがいを感ず始めたことを確認しましょう。



「奉仕活動をするとはどういうことかを考えましょう。」

○自分たちがみんなのためにどのような気持ちで働くのがよいかを考えられるようにしましょう。

終末

○「心たくましく」28「人はどんな場合にいても…」を読んで、授業のまとめとして話し合おう。

板書例

ぼくの草取り体験

奉仕活動について

○募金活動をしたことがある。はずかしかったけど困っている人のためにやった。

○日曜日に近所の人と川のゴミ拾いをしたことがある。たくさん集まってびっくりした。

しかたなしに公園の草取りに行くことになった時、「ぼく」は、どのようなことを考えていたでしょうか。

○何でぼくが行かなければいけないの。

○めんどくさいなあ。

○ぼくも時々公園で遊ぶから仕方がない。



「ぼく」はどのようないことを考えて、さつきよのもしつねいに草取りを始めたのでしょうか。

○大人の私たちは公園で遊ぶ子どもたちのために草取りをしてあげている。

○ぼくはこの公園で遊ぶのでいっしょうけんめいに草取りをしよう。

○洋君は進んでいねいに草取りをしている。

○いやいや草取りをやっているぼくがはずかしい。

小さい子どもの笑い声を聞いて、『ぼく』は、どのようない気持ちになったのでしょうか。

○草取りをいっしょうけんめいにやってよかった。

○子どもたちが喜んで遊んでいてうれしい。

○ぼくがした草取りが子どもたちの役に立っているのうれしい。

○どんなささいなことでも、人の役に立てることはすばらしいことなんだ。

奉仕活動をするとはどういうことかを考えましょう。

○自分がやった仕事で、人の役に立つことはすばらしいことだ。



○人に喜んでもらえることやりがいが出てくる。

《評価》

社会のために役立つ喜びを知って、公共のために進んで働くこととする心情を育てることができたか。